

ガルモハル

JAPANESE SCHOOL OF MUMBAI
Unit No.201/202,Hiranandani Knowledge Park,
Technology Street,Near Dr.L.H.Hiranandani-
Hospital,Powai,Mumbai-400076.India
TEL 022-6694-0630 FAX022-6221-5107

15 DEC/2023 NO8

『生き残る種とは』

校長 佐藤 義朗

12月の児童生徒朝会の校長講和で子どもたちに次のお話をしました。

「コロナの感染症がようやく収束しつつあり、4月から学校の活動も自由に行えるようになった2023年もあと1か月を切りました。コロナ禍では、様々な変化がおき、マスクをつける、三密を防ぐ、部屋の換気を行う等々、状況に合わせて対応しながら生活してきました。

皆さんも、ここインドで生活するにあたり、今まで住んでいた日本や他の国とは違うインドそしてムンバイの環境に合わせて生活していると思います。

私は、生き物のことを研究している生物学者であるダーウインの言葉を思い出しました。

生き残る種とは、最も強いものではない。

最も知的なものでもない。

それは、変化に最もよく適応したものである。

力が強い人が生き残るわけでない。頭がよい人が生き残るわけでもない。

目の前に起きる変化に合わせて生きることができる人がずっと生きていけると言っています。まさに皆さんが今行っていることです。

予測不可能な時代が到来し、数年先も何が起こるかわからない状況ですが、その変化に自分が合わせて生きていけるような柔軟な考えや行動を「学び」から吸収して行ってください。また、残りの2学期・3学期もどうしたらこれからも住みよい地球・住みよい世界を創っていけるかSDGsの学習等を通して学び考えて行ってください。」と。

世界や地球の状況を見ると、この先決して安心して生活できる状況ではないと言っても過言ではありません。世界や地球で起きていることは、決して他人事ではなく、私たちの生活に密接につながっています。

これからも、ムンバイ日本人学校で学ぶ子ども達には、このことをしっかりと自覚して自分たちなりに責任ある行動がとれるように育ってほしいと願っています。

16日から、冬休みが始まります。学校では、学ぶことのできない様々な事をたくさん経験し、「学び」を楽しむことを期待します。



インドで活躍する日本人！講演会



今年度から始まった「インドで活躍する日本人」の講演会。第5回目は2023年の締めくくりとして在ムンバイ日本国総領事館の深堀裕賢様にお越しいただきました。ビルマやタイ、アメリカ、ベトナムなどいろいろなところに駐在されて、今はこのムンバイで総領事としてご活躍されています。いろいろな話をしてくださいましたが、特に、日本とインドには宗教的に深いつながりがあり、日本の仏像の周りにはインド由来の神様が祀られていることや、インド人と日本人は心の奥底で宗教文化が同じであり、最も分かりあえる民族であるという話は本当に興味深いものでした。また、「インドは日本にとってとても大事な国であり、ここで暮らしていることはきっと将来の役に立つ。」「宗教や国籍が違って同じ人間なのだから分かりあえないことはない。」という素敵なメッセージをいただきました。



【児童生徒の感想より一部抜粋】

- ・日本の神がインドの神だということを知ってびっくりしました。本を書いたと聞いたので読んでみたいと思いました。
(小学部3年)
- ・ I was happy to learn about Japanese Gods. Because I'm very interested in them.
(小学部4年)

校外体育 外で思いっきり駆け回りました。

11月24日(金)と12月1日(金)の両日、エマスポーツで校外体育を行いました。子どもたちは全力で走り、いい汗を流すことができました。2日めにはリレーを行い、精一杯仲間を応援していました。



楽しい遠足でした。

12月8日(金)、小学部の1年生から4年生が待ちに待った遠足に行ってきました。自然に囲まれたモンテリアビレッジでは、牛から作られた燃料を見たり、たい肥作りを見学したり。また、アスレチックでは汗をいっぱいかきながら、冒険しているような気分を味わいました。



図書開放のお知らせ

今年度最後の図書開放を2月3日(土) 14:00~16:00で実施します。皆さま、ライブラリーにぜひお越しください。